

和泉短期大学図書館報

第24号

編集・発行 和泉短期大学附属図書館

2012年3月1日発行 〒252-5222 相模原市中央区青葉2-2-1 TEL 042-754-1133

下写真

「紙芝居の会」2011年11月12日(土) 菊池 好江先生(関連記事P.4)



としよかんイロフォーメーション

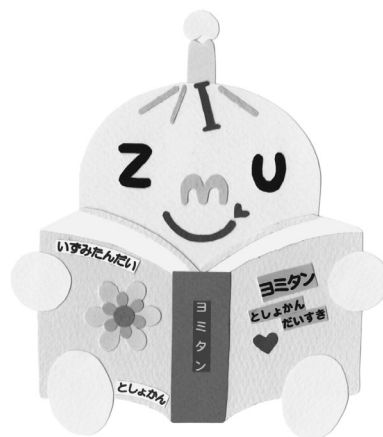
♡♡ ヨミタン ♡♡

図書館に新キャラクター誕生

学生さんと図書館の連携・親睦に役立て、2年間の学生生活で、思い出に残るような図書館をめざした、“ヨミタン”が誕生です!!

概要：職員は、図書館の本が読み(ヨミ)たくなる環境づくりをし、学生さんが、図書館に本を読み(ヨミ)に行きたくなる、つながりを維持できる心地よい図書館をめざします。

★学生さんに人気の絵本、「タンタンシリーズ いわむらかずお著」と「ノンタンシリーズ キヨノサチコ著」にあやかり、長く愛される図書館をつくりたい。



和泉短期大学図書館の今後の使命と図書館報

図書館長 井狩 芳子



和泉短期大学図書館報は、和泉短期大学創立 38 年目の 1993 年 11 月 15 日、当時の学長であった北原歌子先生の強い尽力と、高瀬智津子館長の下に創刊され、その後の約

20 年間に 23 冊が発行され、今年度 24 号を迎えるにいった。

その間、世の中は 20 世紀から 21 世紀へと変わり、奇しくも創刊当時に誕生した子どもたちが、現在、学生としてこの和泉短大に在籍している。そして、同時期の本学法人内においては、1985 年に設立された和泉老人福祉専門学校（途中、和泉福祉専門学校に名称変更）が、新しい使命を担うべく、和泉短期大学の専攻科として 2010 年に再スタートを切ったところである。

創刊当時の図書館報の使命とは、学生をはじめとする、和泉短期大学図書館を利用する全ての方々に対する、館内資料の紹介と啓蒙の役割を果たすべき冊子であった。しかし、この 20 年間の世の中全体の大きな変化の一つとして、I.T.化の普及があげられ、遅まきながら教育現場においても、各種電子機器を活用する機会が増加している昨今である。本学の学生にとっても、メディア媒体からの情報が身近になっており、メディア媒

体からの初期情報取得の傾向は年々増している。また、世の中の潮流として、図書館には「インフォメーション・commons」から「ラーニング・commons」の変革が求められ、先進的な図書館では“集い・論議をし・時には専門スタッフからのアドバイスを受けながら、学びを深める場”へと、変革の一途を歩みだしている。つまり、現代における図書館の使命とは、利用者が求める様々な情報をよりの確に迅速に提供する側面と、知のコミュニティ形成の場を積極的に提供するという、二つの側面が求められている。

図書委員会では、以上の状況を踏まえながら議論を重ねた結果、定期的（年 1 回）な図書館報は今号で廃刊し、本学図書館ホームページを利用した、より細やかな情報（資料を含む）提供をしていきたいという結論にいった。“図書館報”という紙媒体の冊子は中止するものの、これに勝る多くの情報を配信する努力を日々重ねていきたいとの思いを、ユニットメンバー一同、其々の胸に強く抱いているので、是非とも、ご理解とご協力をお願いするところである。併せて、本学の図書館として必要、且つ、可能なラーニング・commonsについても、試行を重ねていきたい所存であり、今後、皆様からの広く活発なご意見やアドバイスをお願いしたい。

◀ 学術情報ユニットメンバーからの一言メッセージ ▶



平塚 豊（学術情報ユニットリーダー）
創刊から約 20 年、「図書館の情報を、より多くの人に届けたい。」との思いから、従来の“図書館報”からの卒業を決断しました。今後の情報発信にご期待ください。



小池 友子（図書館司書）
第 10 号の誌面に登場させて戴いた思い出深い図書館報の終了と新たな情報発信出発は、私にとっても、更なる自己研鑽でありたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



深町 和哉（学術情報ユニットサブリーダー）
より使いやすい図書館にするための図書館システムやウェブサイトの改良といった枠組み作り地道に取り組んでいきますので、よろしくお願いいたします。



外田 祥子（図書館司書）
紙媒体での図書館報は今号が最後となりますが、今後さらに充実した情報を発信していけたらと思います。これからも図書館をよろしくお願いいたします！

図書館報のあゆみ

発行年度		主な内容
1993	第1号	第2回図書館フェア・童話作家 わたなべめぐみ氏講演 寄稿「Medicine for the soul (魂の薬)」
94	第2号	相模原市内大学図書館・市立図書館の相互協力連絡会が発足、 近隣他短大の利用統計
	第3号	第3回図書館フェア・児童文学作家 古田足日氏講演、 図書へのバーコード貼付を開始
95	第4号	シリーズ図書館の仕事(1) 蔵書点検、 書誌データ検索プログラムについて
	第5号	第4回図書館フェア・絵本作家 わかやまけん氏講演、 シリーズ図書館の仕事(2) レファレンスサービス
96	第6号	絵本の貸出・返却をコンピュータ化、 寄稿「読書についてのみつつの思い出」、図書館の仕事(3)
	第7号	第5回図書館フェア・作家 早乙女勝元氏講演、 シリーズ図書館の仕事(4) 図書館と著作権
97	第8号	外部情報データベースを上手に活用しよう！、 各個人用机に照明と電源コンセントを設置
	第9号	寄稿「創造性を育てる教師像」、イエスキリストの誕生について
98	第10号	本のリサイクルコーナー設置、シリーズ図書館の仕事(5) カウンターワーク
	第11号	指定図書制度を導入、卒業生からの一言、クリスマスについて
99	第12号	視聴覚ブースの設置、図書館の仕事(6) 本の配架・棚の整理
2000	第13号	寄稿「日本の美術」、充実してます！実習・就職関係資料
01	第14号	開館時間を1時間延長、DVD プレーヤーを増設、 心理学関係図書紹介
02	第15号	情報検索用パソコンをリニューアル、絵本の読み語りの魅力、 図書館で目的の本を見つけるには？
03	第16号	中島武夫記念文庫の展示、蔵書検索 (OPAC) を学外に公開
04	第17号	大型絵本・紙芝居のいろいろ、「絵本とジェンダー」、「実証的であることと発想力があること」、携帯電話メールサービス開始
05	第18号	図書館新書庫完成、個人情報保護法への対応、ヒーリング図書 コーナー新設、最近学生の利用が多い本
06	第19号	寄稿「原作のプーさんに出会ってみませんか？」 紙芝居の会・お話の会開催、インターネットで本の注文可能に
07	第20号	寄稿「絵本画家フェリックス・ホフマンの故郷を訪ねて」 紙芝居の会開催、ケータイ小説が人気
08	第21号	寄稿「パリをおさんぽー2れつになって」、パネルシアターの会 開催、入学予定者の図書館利用を開始
09	第22号	寄稿「『しゅくだい』は“だっこ”、図書館が全面リニューアル、 紙芝居の会開催
10	第23号	寄稿「フィンランド、スウェーデンの図書館を訪ねて」、パネル シアターの会開催、図書館の蔵書検索用PCリニューアル



創刊号 (1993年発行)
当時はB5サイズでした。



第8号 (1997年発行) から
はA4サイズ。
コンピュータ化の記事が目
だってきました。



第16号 (2003年発行)
館内の展示や掲示の充実と、
大型絵本など資料の特色を
伝えました。



第22号 (2009年発行)
創立50周年記念事業として
館内を全面リニューアル
現在の姿になりました。

「紙芝居の会」

2年 小泉裕紀子



今回、図書館主催の紙芝居の会に参加しました。紙芝居についてはもう知っていると思う方もいるのではないのでしょうか。私も、この講座に参加するまでは、紙芝居の魅力に気が付きませんでした。紙

芝居実演家の菊池好江先生をお迎えして、紙芝居の魅力や演じ方について詳しく教えていただきました。最初に、菊池先生に紙芝居を読んでもいただきました。さすがはプロ、私たちはあつという間に紙芝居の世界に引き込まれました。紙芝居を読む時、舞台を使って幕紙という紙芝居と同じ大きさの紙に和紙を貼るなどして作ったもので読み始めるまで隠しておきます。幕紙を使うのと使わないのでは、期待感が全く違いました。また紙芝居を読み終えた後も幕紙を差し込むことで、お話が終わったと聞き手の気持ちを切り替えることも出来ます。幕紙はお話に合わせて色々な種類のものを用意しておくとのことでした。紙芝居は絵本と同じだと思われがちです。皆さんもご存知のように絵本には絵と文字があり、紙芝居には文字はありません。絵本は、手元でじっくり味わいながら読むものとして書かれているのに対して、紙芝居は

演じるものとして描かれていて、演じ手と聞き手がお互いに心を通わせながらみんなで楽しむものという違いがあります。また、同じ話でも絵本と紙芝居では絵の描かれ方に違いがあり、紙芝居だからこそその絵の描かれ方や間の取り方が勉強になりました。実習や就職してからも、紙芝居を子どもたちに読む機会が訪れると思います。その際に、子どもたちがより楽しめるようにこの講座で学んでおくとよいと思います。授業では教わらない、登場人物の声質の伝え方や紙芝居の抜き方も学べます。

私自身も実習で絵本や紙芝居を読ませていただく体験をしましたが、登場人物がいればいるほど、声をどのように変えると登場人物の台詞が伝わるようになるのか難しい課題でもありました。しかし、この講座に参加して、登場人物が六人もいるお話で声の伝え方のポイントを教えていただきました。そして、実際に練習もして、コツをつかめることが出来ました。この講座を通して、就職して保育者になったら、子どもたちには色々な物語に触れて欲しいという気持ちが寄り一層強くなりました。今回学んだことを活かして保育していきたいと思っています。皆さんもぜひ参加してください。

数字でみる和泉短期大学附属図書館 2010年度

蔵書数 61,005 冊
(全国短大平均 63,000冊)

所蔵雑誌 121 タイトル

所蔵視聴覚資料 1,762 点

整理図書冊数 1,449 冊

学生一人当たり蔵書数 100 冊

図書館資料費 434 万円
(全国短大平均 548万円)

学生一人当たり資料費 0.8 万円

年間貸出冊数 6,402 冊
(全国短大平均 5,000冊)

学生一人当たりの貸出冊数 11 冊

資料費に対する学生への還元率 約3.5倍に還元

全国短大平均値は『「日本の図書館」統計と名簿2010』（図書館調査事業委員会編 日本図書館協会）による。